

第2回熊本駅新幹線口駅前広場 改修に関する懇談会



1.開会

2.懇談会

①ワークショップ結果について【公開】

②デザイン案について【非公開】

3.閉会

1.ワークショップ結果について

1.概要

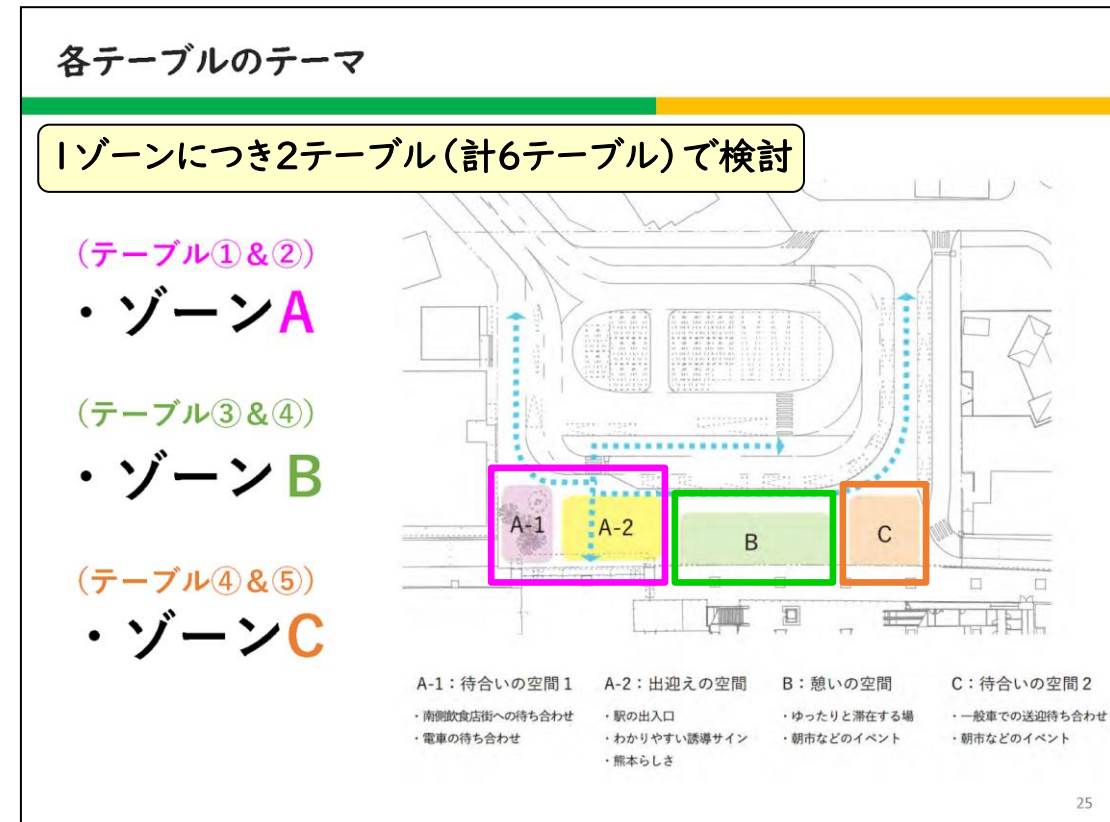
- 目的：熊本駅新幹線口駅前広場（「駅前広場」）の基本設計（駅前広場デザイン）の参考とするため、新しい駅前広場について、具体的な利用方法（過ごし方）や必要なものなどについて利用者目線で意見を募り、今後の景観設計に反映する。
- やり方：駅前広場を3つのゾーン（A「待合い・出迎えの空間」 B「憩いの空間」C「待合いの空間」）に分け、ワールドカフェ形式でゾーン毎に意見を募る。

- 日時：令和6年11月22日（金）19:00～21:00
- 場所：森都心プラザ多目的室
- 参加者数：17名
 - ・昨年度から継続参加：12名
 - ・一般公募等：5名（市内在住の方（西区・北区）、駅周辺企業の方）

2.ワークショップの流れ

- ①はじめに（熊本市説明）
- ②これまでの経緯と今回の趣旨説明（熊本市説明）
- ③デザイン案について（佐藤光彦建築設計事務所説明）
- ④グループワーク
- ⑤全体発表（各テーブルファシリ）
- ⑥有識者講評（原田先生、星野先生）

■グループワークの様子



▲各テーブルのテーマ

1.ワークショップ結果について

3.各エリアの主な意見【A-1, A-2エリア（待合い・出迎えの空間）】

■A-1, A-2エリアでは、「椅子・ベンチ・テーブル」「おてもやん」「サイン・情報」「水飲み場」「噴水」「屋根・壁」に関する意見があがった

■椅子・ベンチ・テーブル

- 小さなテーブルの追加
 - ・特に食事スペースとして活用できるもの。
- 椅子やベンチの配置場所、数の見直し
 - ・イスやベンチを道路から少し離れた場所に。
 - ・現在の需要に応じて、もう少し多くのイスを。
 - ・溜まり場化を防ぎつつ、適度な数を維持
- デザインの工夫
 - ・子どもや観光客にも喜ばれる柔らかなデザインを。

■おてもやん

- 設置の継続
 - ・おてもやんは熊本のシンボルとして残すべき。
- 位置の見直し
 - ・スペースを広げるために、位置を変更する選択肢も考慮。
- 機能の追加
 - ・音楽が流れる仕組みやフォトスポットとしての工夫を追加。
- 仏舎利塔との連携
 - ・仏舎利塔と組み合わせ撮影できるような配置を。

■サイン・情報

- サイン配置の最適化
 - ・出入口周辺に集約し、動線を明確に。
 - ・柱や床を活用した配置で視認性を向上。
 - ・利用者ニーズに対応し、視認性を考慮した低めの配置や地面サイン
 - ・高齢者や観光客が直感的に理解できる案内
- デザインと内容の改良
 - ・熊本らしさを取り入れたデザインやデジタルサイン。
- 観光価値の向上
 - ・熊本の自然や観光地のリアルタイム情報を提供。
 - ・和や熊本の魅力を感じさせる工夫を追加。

■噴水

- 噴水の再稼働
 - ・子どもや観光客が楽しめる場として再整備。
 - ・循環式水利用やデザインの意図（阿蘇山や白川のイメージ）を分かりやすく伝えるサインを設置
- 衛生面の改善
 - ・問題行動が起きにくい環境デザインを導入。

■水飲み場

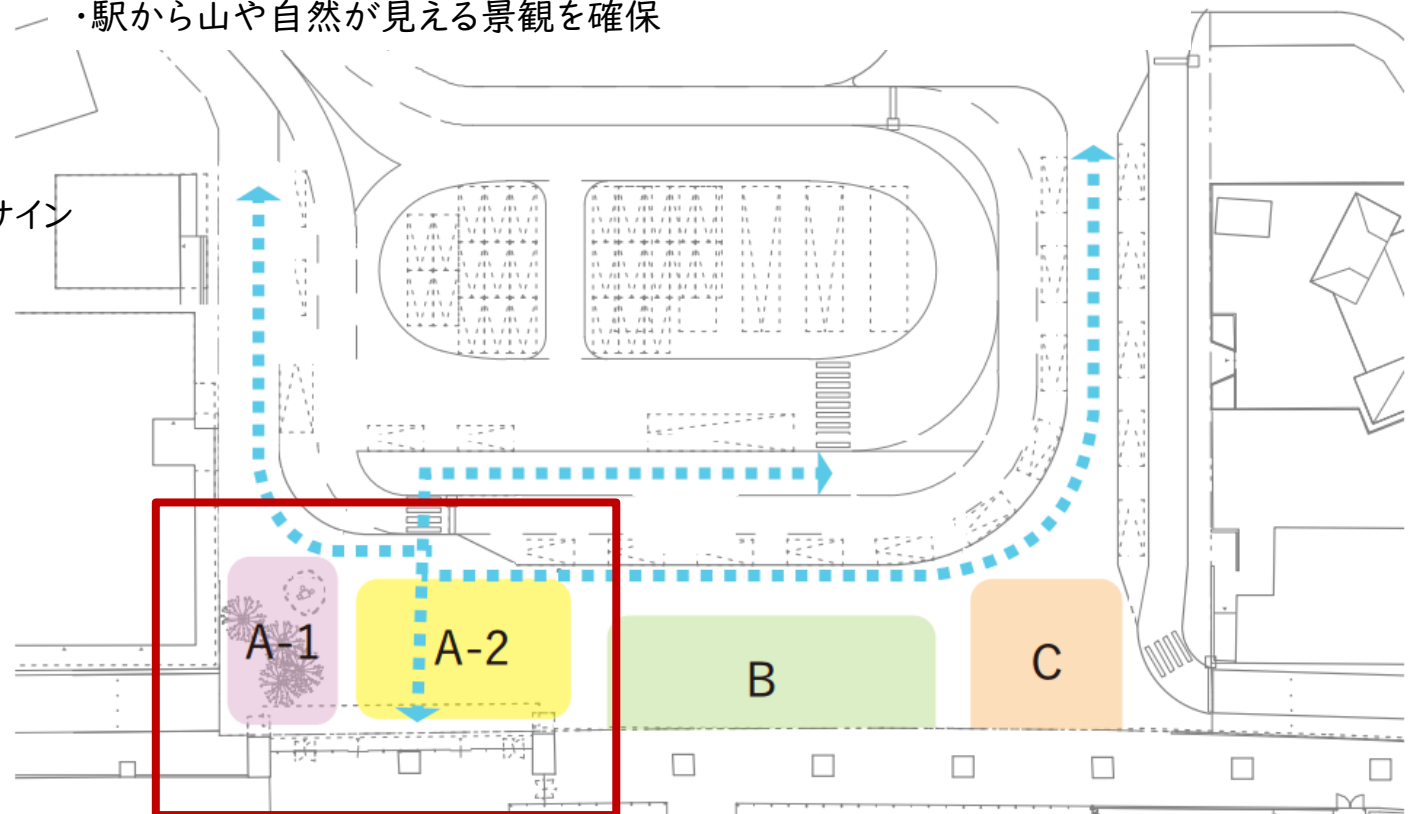
- 設置の継続
 - ・暑い日や熊本らしさを考慮。
- 情報の付加
 - ・説明を加えることで、水の特徴をアピール。
- 場所の見直し
 - ・現在の動線への考慮。
- デザインの改良
 - ・噴水と水飲み場の一体化水循環の仕組み。

■屋根・壁

- 壁に関する対応
 - ・壁を撤去して開放的な空間を作る。
 - ・人や車の動線を整理し安全性を確保する。
- 屋根の設計
 - ・暑さや日差しを防ぐため、出入口や必要な場所に庇や屋根を設置。
 - ・開放感を維持するため、透明な屋根や軽量素材を活用。
- 写真スポットの整備
 - ・「おてもやん」や「仏舎利塔」を生かしたフォトスポットを計画。
 - ・駅から山や自然が見える景観を確保

■その他

- 環境改善
 - ・クリーンなイメージを重視し、タバコ対策を徹底。
 - ・ミスト設置。
- トイレ設置の要望
- 自転車との動線の整理
- 時計の再設置
 - ・駅利用者（特に高齢者）向け。
 - ・目立つ位置に置き利便性を。
- 利用者対応
 - ・レンタカー利用者が探しやすい案内表示の設置。



1.ワークショップ結果について

3.各エリアの主な意見【Bエリア(憩いの空間)】

■Bエリアでは、「椅子・ベンチ・テーブル」「サイン・情報」「床」「屋根・壁」「イベント」に関する意見があがった

■椅子・ベンチ・テーブル

●安全性の向上に利用

- ・ベンチを車待ちスペースに配置し、事故予防の区切りとして導入。
- ・自転車と歩行者の安全な動線設計を実施。

●省スペースのベンチやテーブルの設置

- ・跳ね上げ式ベンチや小型テーブルを設置し、休憩や軽食スペースに。

●イベントに対応できるもの

動かせる椅子や収納式イスの導入と盗難防止や耐久性に配慮。

●修学旅行生への配慮

学生が集まりやすい場所ではベンチはない方がいい。

■サイン・情報

●付近の観光情報やコインロッカーの案内

- ・花岡山などの観光地を対象に、距離や時間を明示したサイン。
- ・コインロッカーの案内。

●ターゲット別情報提供

- ・観光客向けのサインを充実させ地元住民向けのサインは最小限に。

●配置の高さの最適化

- ・車椅子でも見やすい高さ。床にサインを配置はどうか。

■床

●素材について

- ・保水性のある材料や木、タイルの色分け。
- ・凸凹の床や段差を設け、自転車の通行抑制や歩行者の安全を確保。

●芝生エリアの設置

- ・部分的に芝生を設置し、通行ゾーンと休憩ゾーンを分離。
- ・涼しさや快適性を提供する一方で、維持管理のコストとリスクは心配。

●遊びの要素追加

- ・足で踏むピアノやその他の遊び要素を導入し、子どもたちが楽しめるエリアに。

●視覚的なゾーニング

- ・垂れ壁ではなく床でエリアを分ける。

■屋根・壁

●屋根の設置

- ・雨や日差しを防ぎ熱を通しにくい屋根。
- ・光が入る透明素材や可動式のもの。

●新幹線観覧用のスペースの設置

- ・親子や若者の体験価値を向上。

●壁と景観の調和

- ・山や自然を見渡せるように壁を設置しない、または最低限に。
- ・垂れ壁も、景観を妨げず安全性を考慮した高さに。

●緑の活用

- ・屋根がない場合、植栽で日陰を作り、涼しさと快適性を提供。
- ・コンクリートの照り返しを軽減する設計を検討。

●ゾーンの分離

- ・垂れ壁や壁ではなく、床や植栽でゾーンを分けるデザインを採用。
- ・車待ちの人向けに。視覚的な開放感を保つ。

●ピロティの利用

- ・JRの建屋と一体利用し、そこでマルシェなどを出すと雨の心配もなくなる。

■イベント

●短期的・小規模なイベント

- ・親子連れを対象とした非商業的なイベントを優先

●地域での交流を促進するためイベント

- ・住民参加型や自治会、騒音が少なく落ち着いて参加できるイベント。

●白川口との差別化

- ・白川口の大規模イベントと差別化し、小規模で試験的なイベントを推進。

■その他

- 植栽:涼しさと快適性を提供し、癒しの空間を作る。

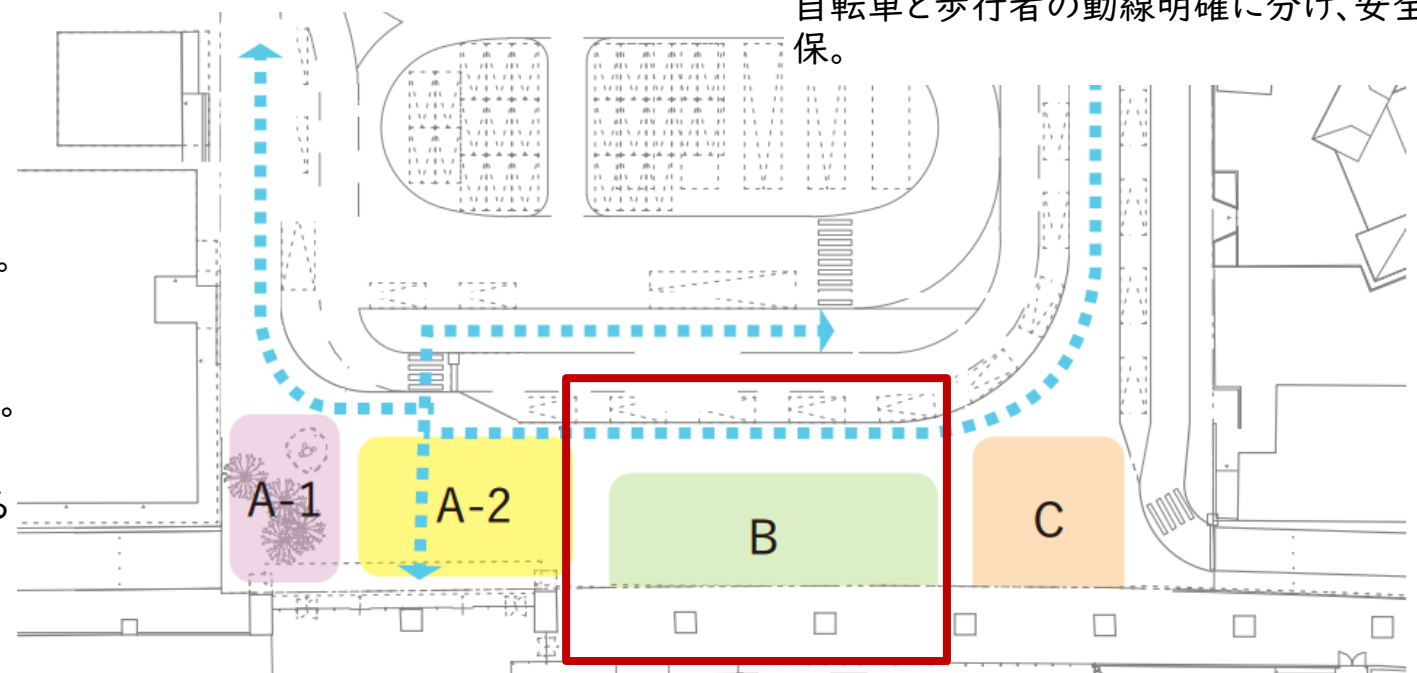
- 動線の懸念:バスを降りた人々の停滞や通行の妨げが心配。イベント時の駐輪場からの動線。

- スケートボード場の提案:親子連れが楽しめるスケートボード場を設置し、交流を促進。

- 県産の木材の利用:ベンチや街具に県産の木材を使用。

- ミストの設置:暑さ対策として、垂れ壁など。

- 安全対策:車道への飛び出し防止策
自転車と歩行者の動線明確に分け、安全性を確保。



1.ワークショップ結果について

3.各エリアの主な意見【Cエリア（待合いの空間）】

■Cエリアでは、「椅子・ベンチ・テーブル」「植栽」「サイン・情報」「屋根・壁」「床」に関する意見があがった

■椅子・ベンチ・テーブル

●ベンチの配置

- ・日陰を提供する場所や、車の動きが見える安全な位置に設置。
- ・見やすい場所や目立つ位置に配置し、利便性を向上。

●テーブルの設置：

- ・軽食や飲み物を置ける小型のテーブルを配置。
- ・雨や汚れを防ぐため、屋根付きエリアに配置。

●利用者への配慮

- ・車いす利用者やソーシャルディスタンスに対応した設計。

●ゾーニング

- ・Aエリアから見えるCエリアにテーブルやベンチを集約し、長居できるスペースを形成。

■植栽

●植栽デザイン

- ・落ち葉が少ない低木や、色彩のある花壇を中心に植栽を整備。
- ・イベント時に移動可能な可動式の植栽を導入し、柔軟な空間利用を。
- ・はなみずきがいいのでは。

●管理の簡素化：

- ・鳥が集まりにくい植栽を選定し、フンの問題を軽減。
- ・落ち葉の少ない樹種や管理のしやすい花壇を採用。
- ・適切な植栽管理をたてて枯れた状態にならないように。

■サイン・情報

●情報提供の充実

- ・熊本駅周辺や観光スポット、レンタカー利用者向けの案内を強化。
- ・電車の乗り換え待ちの時間を有効に使える情報提供を設置。

●視認性の向上

- ・歩道に直接記載するサインや、ランプで光る仕組みを採用し、夜間や遠くからでも見やすい設計に。
- ・サインを簡潔で見やすいデザインにすることで、混雑時でも利用者が迷わないように。

●安全性の確保

- ・マンションの駐車場付近に注意喚起や動線を示すサインを設置し、逆走を防止。

■屋根・壁

●屋根の設置

- ・雨や暑さを防ぎ、子どもや車いす利用者が安心して利用できる屋根を設置。
- ・光を取り入れる高い屋根や、半透明素材を使用して明るい印象に
- ・イベント用に可動式の屋根やテント基礎を導入し、柔軟な運用を可能にする。

●メンテナンスや素材

- ・雨で汚れが落ちる素材。汚れが目立たない素材。

●壁の設計

- ・通行を妨げない設計とし、壁の設置を最小限に留める
- ・開放感を優先した空間設計。

■床

●遊び心のあるデザイン

- ・子どもが楽しめる走り回れるエリアや、傾斜をつけたり音の出る仕掛け。

●バリアフリー設計

- ・車いす利用者や高齢者に配慮した滑りにくく、つまづかない床材。

●素材選定

- ・ウッドデッキを一部導入し、空間に温かみを加える。

■その他

●ミストの導入

- ・涼しさを提供する仕掛けを導入。
- ・屋根の設置よりも、ミストや水を使った癒し効果を重視。

●夜間の明るさ改善

- ・夜間の暗さが問題。駅周辺やピロティの照明の不足。

●動線と交通整理

- ・学生の自転車や車が危険とされており、動線の確保が必要。
- ・自転車の速度を制限する表示を設置し、歩道と車道の安全性を高める。

●トイレ設置の要望

